【野菜】伝統野菜栽培の取組（久万川（くまがわ）地区集落協定営農組合）　【高知県高知市】

土佐の伝統作物（牧野野菜）に着目したポイント

収益性や食生活の変化などにより、古くから地域に根ざした農作物が姿を消す中、特色ある地域資源としての活用や地域の活性化の一つとして取組が行われている。

牧野野菜の種子生産

【地域の連携状況】

・「Team Makino（代表 熊澤秀治氏）」を中心として、土佐の伝統作物を「牧野野菜」と名づけ復活に向けた活動を実施。

・導入品種等について、行政・普及センターが情報提供。

取組産地の概要

○「農地を荒らさないように、作付けができない農地は皆で作ろう」という地域の意思から組合を平成26年4月に設立（専業農家1名）。

○ 将来的に地域の後継者に農地を引き継ぐため、組合の活動は強制ではなく楽しく農地を守るための組合活動を実施。

○ 平成27年度から伝統野菜の種子生産を開始
（栽培品目：田村蕪、もち菜、鏡川集落の赤カブ、葛西菜）

生産条件

・海抜200mの中山間地域で、今は霜が降りるが降雪はない。

・市内の平場の団地に比べハウスも少なく、山と谷により隔離し、虫や病気も少ないため交配しにくいことから、種子生産に最適。

ブランド化

・「植物学者 牧野富太郎博士から収集を指示された種子から生産された」というストーリー性とネームバリューを活用。

・近隣ホテル（料理長）と連携し、伝統野菜を提供

取組農家の拡大

・若い人が住みやすい地域環境を作り、地域住民全体で、農地・農作業を請け負うことで、後継者の育成を図る。

中川直売所　とんとんのお店

【実績】

・伝統野菜は27年度から種子生産を開始（品目：田村蕪、もち菜、鏡川集落の赤カブ、葛西菜）

・品種毎に4箇所の種子圃場（ハウス）を設置（合計 5a））

【今後の展望】

・品種固定ができていないため、選抜してより良いものを選抜する必要。

・田村蕪の良味を活かした、「久万川蕪」として販売を検討。

・伝統野菜の食べ方、出荷時期等を検討する必要。

・ホテルの宿泊客との交流の場を設け、更なる地域活性化を目指す。